



区民と区職員が、わかりやすい日本語で外国人に説明する方法を学ぶ  
**「やさしい日本語」**でいってみよう！

とき 8月26日(月) 午後1時30分～4時

ところ 区立文化交流ひろば(光が丘3-1-1)

26日、文化交流ひろばで、外国人に対して「やさしいにほんご」を使ってわかりやすく説明する研修「やさしい日本語でいってみよう！」が開かれた。区役所が配布している文書や日常生活の中で使われる文書を題材として、「やさしい日本語」に言い換えて日本語に慣れていない外国人に説明する工夫やテクニックを、区職員と区民が一緒になって学習した。

この研修は、区の窓口で外国人が訪れた時に、より分かりやすく説明する技術を身につけるため、昨年度から区職員向けに開催されていたが、今回は区職員8名のほか、一般区民24名も参加した。参加者は、区の呼びかけに応じて聞き役となった近隣在住の外国人4名を相手に、ジェスチャーや絵を交えながら、分かりやすく伝える工夫を考えた。「身振りや言葉をかみ砕いてもなかなか伝わりませんでした。伝わったときはものすごく楽しかったです。」など、困難さと爽快感との両方を実感した参加者の声も多かった。

講師の中山真理子さん(亜細亜大学講師)は、「分かりやすい日本語で外国語なしで外国の方と話せます。皆さんもやさしい日本語を学んで身につけませんか。」と話してくれた。



【台湾と韓国出身の方に説明する様子】



【言い換えの検討をする参加者】

【「やさしい日本語」とは】

阪神・淡路大震災を契機に災害が起きた時、確実に外国人被災者に災害情報を伝えるために研究された「基本的な日本語能力」で理解できる日本語。

多様な言語を使用する外国人に対し、それぞれの言語通訳を用意することは不可能であり、日本語を理解されやすい言葉「やさしい日本語」に置き換える対応が考えられるようになった。普通の日本語で10%程度しか伝わらなかった情報が、「やさしい日本語」に置き換えることで95%理解されたという実験結果も出ており、その有効性が確認されている。

やさしい日本語による置き換えの例

今朝 きょう、あさ、危険 あぶない、余震 あとでくる じしん

【研修を実施した経緯】

練馬区には、約100か国13,000人の外国人が住んでいる。区はこれまで、区役所内に英語、中国語、韓国・朝鮮語の外国語相談員を配置したり、区民の通訳ボランティアを活用したりするなど、日本語でのコミュニケーションが困難な区民への対応を行ってきた。しかし、その対応には限界があるため、「やさしい日本語」を積極的に活用して日本語によるスムーズな意思の疎通を目指すこととした。平成24年度に策定した「練馬区国際交流・多文化共生基本方針」では、区職員による「やさしい日本語」の活用だけでなく、町会、自治会等の地域における活動においても、「やさしい日本語」の活用についての啓発を行うとしている。

【文化交流ひろば】

旧光が丘第五小学校の一部を活用し、青少年をはじめとする多様な世代の文化芸術活動および多様な文化を尊重した区民の地域活動の推進などを目的として、今年4月に開設した。

【問い合わせ】区民生活事業本部 地域文化部 地域振興課長 事業推進係 電話03-5984-1523